

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和四年十一月度 入賞句一覧 投句数 六百二句

長野 美代子 選

特選

もう一度実るつもりの稽かな 奈良県奈良市 やまとなでしこ

私も俳句に手を染めて五十年あまり、色々の事を教えて戴き知らぬことばかりでした。よく琵琶湖へ行くと八月には稲刈られていました。十月頃にはその稲が大きくなり、穂が出来て見ません。その頃には渡り鳥が来て、湖も賑やかになっていきます。昼の湖にはほとんど鳥の姿を聞き驚いたものです。思い出しうれしくなりました。 渡り鳥の餌とし、人は鳥と生きてきたと聞

釣り竿を磨ひては振る夜長かな 大垣市 安田 むつこ

私の息子が三歳の頃、棒を持って来て紐をつけると、昨夜の雨の水溜りにいつまでも下げていました。「お魚がいる」と言った頃から定年を過ぎた今も、止むことなく釣り竿を磨いています。でもそんな時が一番至福の時なのでしょう。夜長もいいですね。

無花果の枝引き寄せてもぐばあちゃん 養老郡養老町 山田 順子

元気なおばあちゃんではのぼのぼのします。足元には待っているお子さんの姿も見えて来ます。このような心あたたまる俳句も好きです。いつまでも元気でいてくださいね。

秀逸

雲の波浮きつ沈みつ月の舟 大垣市 遠藤 加容子

碧天の雲も過客や翁の忌 不破郡垂井町 川瀬 慶泉

秋収め時を忘れし古時計 本巢市 小泉 裕子

豊年やよく翻る祭典旗 養老郡養老町 田中 紫香

無人家の藪中灯す烏瓜 不破郡垂井町 富田 実郎

太き指教へてくれし返り花 安八郡輪之内町 野村 照子

一木の葉先は露の真珠玉 大垣市 宇佐美 昭子

秋高しと言へどコロナの棒グラフ 静岡県富士市 磯野 昭仁

玉入れの玉の代わりの新松子 三重県鈴鹿市 松井 ドラム缶王

難民やいびつに回る木の实独楽 神奈川県横浜市 龍野 ひろし

入選

青雲をまとふ伊吹や蕎麦の花

大垣市

酒井 和美

夕刊に少し湿り気十三夜

東京都世田谷区

関戸 信治

吹き返し爽やかといふ一ト日かな

大垣市

高津 喜久子

ゆらゆらと形を変える秋の鯉

羽島郡笠松町

藤澤 未有

白き胸広げて群れ飛ぶ稻雀

安八郡神戸町

北村 咲子

宿に錆ぶ温泉櫓冬隣

埼玉県川口市

吉永 寿美子

無住寺の空の高さや落葉焚

愛知県名古屋

館野 茂子

遠望の白き御岳冬に入る

大垣市

大杉 すみゑ

花八手夫百才の笑顔かな

大垣市

臼井 秀子

品書きの余白に小さくきのこ汁

大垣市

早苫 千恵子

息災の一筆添へて今年米

大垣市

新町 恵子

校庭の釣瓶落しのすべり台

大垣市

傍島 隆

ほほづきや手遊びの子のぬくき指

長野県東御市

佐藤 なみ

日帰り湯の濡れ手ぬぐいや鯛雲

神奈川県川崎市

佐藤 廣枝

伊勢海を覆ひ尽くせる鯛雲

愛知県尾張旭市

小野 薫

行くほどに深むる秋や中央線

愛知県豊田市

城山 悠水

日の匂ひ孕み馥郁ことし薫

岐阜市

辻 雅宏

精米を待つ間の憩い今年米

滋賀県大津市

近江 堇花

穂薄の揺れるるしづかなる時間

東京都足立区

木幡 忠文

キヤラメルの箱に隠した枇杷の花

大垣市

栗原 利香

選者吟

一灯は釈迦を照らしてそぞろ寒

美代子

一般の部

